

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (94) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(94)—

1. 始めに

前報(93)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、今回からスピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ曲です。

REIHE ST742

モーツアルト **Das Londoner Notenbuch**
Karl-Heinlch Daehn (Klavier)

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

未知のレーベルでイコライザー特性が不明の盤ということで、条件を変えながら聴いていきました。ドイツのオリジナル盤であり、イコライザーカーブはTELDEC がしっくりきます。また、位相反転させると定位が明瞭になるので、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

未知のレーベルで **Das Londoner Notenbuch** という題名も分からなかったのが宗教曲の続きで再生しましたが、ドイツ語のクレジットによれば、青少年向けのピアノの練習曲集のようです。40曲の小品が演奏されていますが、どれも分かりやすい、明るく軽い曲でフレージングも簡単なものです。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上